



クオリティインディケーター(QI)成果報告 〔看護部・褥瘡ケアセンター〕

指標名

褥瘡推定発生率

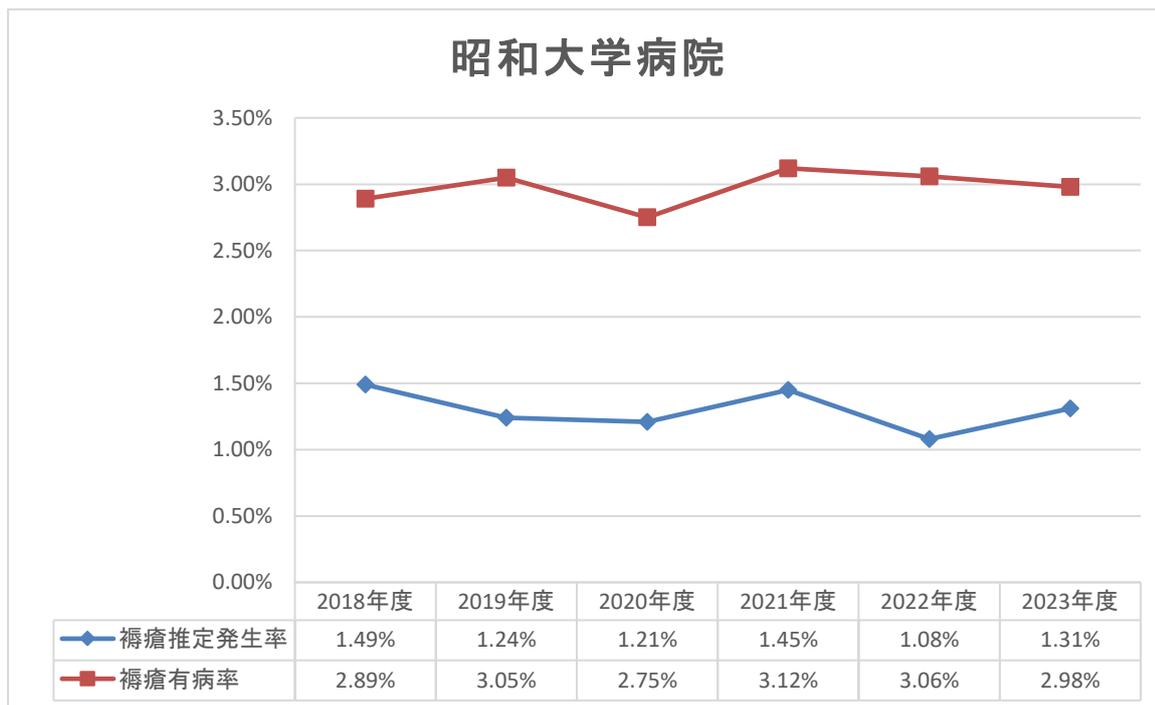
目標・ゴール

褥瘡推定発生率 1.08%以下

目標・ゴール達成による効果

褥瘡は疼痛やADL低下、感染の要因となり患者のQOL低下だけでなく、在院日数の長期化や医療費拡大に繋がる。このため、予防対策を提供することによって在院日数の長期化、医療費の拡大を予防できる

目標・ゴールに対する成果の状況



推定発生率算出の定義

※ 推定褥瘡発生率 (%) = $\frac{\text{調査日に褥瘡を保有する患者数} - \text{入院時既に褥瘡保有が記録されていた患者数}}{\text{調査日の施設入院患者数}} \times 100$

※調査日の施設入院患者数：調査日に入院または入院予定者は含まない。

調査日に退院または退院予定者は含める。

※1名患者が褥瘡を複数部位有していても、患者数は1名として数える。

※入院時すでに褥瘡を保有していた患者であっても、新たに入院中に褥瘡が発生した場合は、院内褥瘡発生者として取り扱い、褥瘡推定発生率を算出する。

目標・ゴール達成度

- S : 大幅に目標を上回って
- A⁺ : 目標を多少上回って達成
- A : 目標を達成
- B⁺ : 目標を少し下回った
- B : 目標を下回った
- C : 目標を大幅に下回った
- : 外的要因により継続困難となった。

目標・ゴールの成果と課題・改善策

2023年度は、「ベッドアップ・ダウン時の摩擦・ずれの軽減」と、「車椅子乗車時の除圧」を中心とした褥瘡予防ケアに取り組んだ。背抜き・圧抜きの実施率91%、車椅子乗車時のプッシュアップ(お尻を定期的に持ち上げる事)実施率が78%と改善したが、新規褥瘡発生件数は増加し、褥瘡推定発生率は上昇した。原因として、失禁を中心とした皮膚湿潤ケアの不足が考えられた。

このため2024年度は皮膚湿潤ケアを中心とした褥瘡予防ケアに取り組むことで、仙骨、臀部、尾骨部の新規褥瘡発生の低下を図る。また、褥瘡予防ケア用品の整備も継続し、療養環境の質の改善に取り組む。